

農林水産関連産業

【指定事例1】 漁業 - 漁業 - 海面漁業

《抱えていた課題》

- 「常磐もの」として、全国に流通させていたが、震災前のような水揚げや流通が困難となった。
「常磐もの」の付加価値向上及び販路回復・開拓したい。

《事業内容》

- 鮮度の高い状態で水揚げを可能とするための漁労機械を導入
- 水揚げを行った魚介類を高鮮度・高品質な状態の運搬を可能とするため、冷風・冷海水装置等を導入

《事業実施による成果》

- 事業実施前と比較し、水揚げ数量は最大112%増加、水揚げ金額は最大111%増加した。
「常磐もの」の付加価値向上、販路の回復・拡大につながった。



【指定事例2】 卸売業 - 飲食料品卸売業 - 農畜産物・水産物卸売業

《抱えていた課題》

- 風評被害により福島県産の野菜・果物の販売不振により、仕入れを断念せざるを得ない状況に陥ってしまった。
- 近年、仕入れを再開したが、従来の物流拠点は保管スペースが狭く、出荷数が限られていたために、
出荷用の果物を持ち帰ってもらうなど、生産者にご迷惑をかけていた。

《事業内容》

- 集果・選果・袋詰め・出荷等を行う物流拠点、県産果物を使った商品開発が行える拠点の新設

《事業実施による成果》

- 保管スペースが増え出荷調整の作業がなくなり効率が向上。
- 大型冷蔵庫の新設により、鮮度維持が可能となり、消費者に新鮮で高品質な福島市産果実を提供できるように。
- 福島市内の取引農家数が20軒増加し、その後も年々増加。福島県産果物の販売金額は前年度比の126%を達成。
- 拠点新設により、生産者同士の情報共有の場にもなっている。





※令和8年9月17日時点

観光関連産業

【指定事例3】 宿泊業・飲食サービス業 - 宿泊業 - 旅館・ホテル

《抱えていた課題》

- 観光客数が減少したことに伴い、客室の稼働率が下がり、生産性が低下してしまった。
- より多くの人々に宿泊施設を利用してもらいたい。

《事業内容》

- 宿泊施設を新築
⇒客室数を減らし1室あたりの面積を広げ、快適な客室を提供することで客単価を上げる。
- 障がい者や高齢者に配慮しバリアフリー化
- 外国人向けに施設内の案内を多言語化

《事業実施による効果》

- 事業実施前と比較し、宿泊者数は最大21%増加、インバウンド宿泊者数は最大72%増加した。



【指定事例4】 宿泊業・飲食サービス業 - 宿泊業 - 旅館・ホテル

《抱えていた課題》

- 風評被害により観光客数が減少し、客室の稼働率が下がり、生産性が低下していた。
- 常磐地区の観光地に活気を取り戻すため、施設の魅力を増進する必要があった。

《事業内容》

- 新館の新築
- 旧館のバリアフリー化
- 旧館サウナの増設による魅力化

《事業実施による効果》

- 旧館は、前年度比で利用者数は173%、収益は166%を達成。



問い合わせ先：福島県企画調整部風評・風化戦略室

TEL:024-521-1129

E-mail : fuhyosenryaku@pref.fukushima.lg.jp

URL:<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-tokusoho1070.html>

